成人
SEIJIN

特集

基本方針発表に思う

Sample

青年会旭日分会会報『成人』立教186年4月号

巻頭言

北海道で気球に乗ったことがある。新婚旅行でせっかく北海道に来たのだから、日常では味わえない体験をしてみようか、という思いからだった。実際に乗ってみると、実に不思議な感覚だった。エレベーターのように機械的な動力によって持ち上げられているような感覚とは違い、ふわりふわりと自分の体が浮かび上がっていく感覚は、それまでに味わったことがないものだった。

同乗したガイドさんが気球内部でバーナーを焚くと、気球は徐々に高度を上げていく。高度を下げたい時には、内部に垂れ下がったヒモを引っ張り、気球上部の排気弁を開く。すると、その隙間から熱気が逃げていき、気球がゆっくりと高度を下げていくという仕組みである。

教祖１３０年祭に向かう年祭活動がはじまって３カ月が経とうとしているが、読者の皆様はどのような三年千日をお過ごしだろうか。今号の表紙を気球にしたのは、自分の心が気球のように浮き沈みしているのを感じたからである。

心を燃やしてひのきしんに励んだり、心定めを実行すると、おのずと勇み立って心が軽くなったように感じる。しかし、喜んでひのきしんに励むことができない時やどうしても心定めを実行できない時もある。そんな時には、熱気が抜けた気球のように自分の心が重く沈んでいく。そんなことを繰り返していた３ヶ月だった。

『天理教教典』の第六章には「人間心のはかなさは、折角、てびきを頂いて、心を定めても、時がたてば、一旦定めた心もいつのまにか動いて、形ばかりの信心におち、知らず識らずのうちに、又もや、親心に反する心を遣うたり、行(い)をしたりして、しかも、気附かずにいる場合が多い。」と記されてある。天理の教えに触れていると、まさに自分のことを言い当てられているように感じる時があり、誠に気恥ずかしい限りである。

人間は教祖のひながたを通り続けることはできない。教祖はそうした人間心のはかなさなど重々ご承知である。そこで、ひながたを通る期間について「五十年の間の道を、まあ五十年三十年も通れと言えばいこまい。二十年も十年も通れと言うのやない。まあ十年の中の三つや。（22.11.7）」と仰せられる。

青年会旭日分会に繋がる我々は、それぞれに心を定めて、心が動けばまた定め、そんなことを繰り返しながら、少しで存命同様にお働きくだされる教祖にお喜びいただけるような心へと成人していきたいものである。この三年千日は、神様の御用に心を燃やして勇み立とう。自分の心の気球を浮かべた分だけ素晴らしい景色を眺められることを期待して。

（松田）

心さいすきやかすんた事ならば
どんな事てもたのしみばかり
（おふでさき 十四50）

僕たちは、心を澄ますことからはじめよう。

一人ひとりの三年千日の物語が、今はじまる。

TENRIKYO **SEINENKAI**

天理教青年会では、「心を澄ます毎日を。」を基本方針として活動しています

Sample

立教一八六年　天理教青年会　基本方針

心を澄ます毎日を。

新型コロナウイルスの世界的流行は、
これまでの日常に変化をもたらし、
さまざまな問いを生み出した。

青年会は何のためにあるのか。
私たちはなぜ信仰するのか。
信仰するとはどういうことなのか。

問いは、対話を生み、対話は、気付きを生んだ。

その気付きは、
信仰は〝日々〟だということ。
教えの台といわれる
かしもの・かりものの理に基づく生き方が、
今、求められている、ということ。

私たちの体をはじめ、
あらゆるものは親神様の御守護によってここにある。
お互いはきょうだいであり、
皆、親神様の懐で暮らしている。

その中で起こるさまざまな出来事は、
心を澄ましてほしいという親神様からのメッセージ。
まずは心のほこりを払い、
自分自身が変わろうとする姿勢を大切にしたい。

教祖は、教えに基づく生き方を、
自らの行動をもって伝えられた。
その根底にあるのは、
人にこうなってもらいたい、誰かにああしてほしい
と求める心ではなく、
可愛い子どもをたすけたい
という与える心。

言い換えれば、
人の良いよう、喜ぶよう、たすかるようにという、
誠の心。

教祖百四十年祭へ向かう三年千日は、
一人ひとりが教祖のひながたをたどり、
親神様の思いに近づく旬。

心を澄ます毎日を。

sample

日々、心を澄ますことを心がけたい

庄司 雅則

今回は青年会本部から出された「心を澄ます毎日を」の基本方針を受けての感想や今の考えを綴っていきたいと思います。最後まで読んでもらえると嬉しいです。

私は、今年の１月２５日、副委員長２名とこの基本方針を直接聞かせてもらいました。ちょっとしたことですが最新の「あらきとうりょう」vol.290で旭日から参加した３名が写ってますので見てみてください。

私が基本方針を初めて聞いた時、前回の『成人』で書いた私の今年の目標である
「日々、心を澄ますことを心がけていきたい」とほとんど一緒だったことに驚きました。

教祖１４０年祭に向かう旬、大教会創立１３０年に向かって成人という旬。今年、自分なりにどうした目標を立てようと考えていました。そんな中考えて決めたことだったので、自己満に聞こえるかもしれませんが、正直、嬉しかったです。

私は３年ほど前からかしもの・かりものの理を日々心に治める努力をする中で、教えの素晴らしさを感じることが多くなりました。

かしもの・かりものの理が心に治まらなければ、今ある自分の物事に感謝もできず、不足ばかりし、ほしいや欲の埃をつんでしまう。そして、心を澄ますことができない。

心が埃で汚れていると、自分自身の与えられているものごとが見えなくなり、感謝することさえできず、楽しく毎日を送ることはできない。

そして、他の人に感謝することも、他人を思いやることも、助けることも難しくなると感じるようになりました。

今回の基本方針である「心を澄ます毎日を」で私が心がけていきたいことは、自分の心遣いや言動に矢印を向けて、心を澄ます毎日を大切に積み重ねていきたいと思います。

さあ僕たちはまず心を澄ますことから始めてみませんか？

最後まで読んでいただきありがとうございました。

基本方針と日進月歩

藤井 義雄

「心を澄ます毎日を」と言われて、心を澄ますとは何かを考えました。心を澄ますとは、つまりほこりを積もらせないことなのかなと。ですけれど、ほこりというのは日々に積もっていくからほこりであると聞かせて頂いています。自分の一日の心の動きを考えれば、ほこりが積もっていない日なんてなかなかないなとも感じました。しかし、そうして考えてから「ああ、だから『毎日』なのか」と思いました。

人間ですから、この基本方針を見て、「なるほど、じゃあそうやって通ろう」と考えても、なかなかその通りにはなりません。心とは感情ですから、それを完全に思い通りにするのは私を含め多くの方にとっては難しいことだと思います。だからこそほこりと言われるのでしょうが、気付かないうちに積もっていくことを止めるのは不可能でしょう。

『毎日』とは、その瞬間瞬間のことではなく、ずっと続いていく日々のこと。お道を信仰している者としてあたりまえのことでありますが、その日一日を思い返して、反省し心のほこりを払わせて貰う。今日こんな事をしてしまったな、思ってしまったな、だから今度はそうならないようにしよう。そうして、同じ事を繰り返しながら、少しずつ成人させて貰う。それが大事なことだと思わせて頂きます。

そう考えますと、『心を澄ます』ですから、ほこりを積もらせないのではなく、ほこりを払っていくことを掲げているのかとも思います。

基本方針として掲げられていますから、頭の片隅にこれを置いておけば、ふとした時に自分の心のほこりを払わせて貰い、またほこりが積もりそうな時に思いとどまり、さらには人にほこりを積もらせないようにできることもあると思います。そうした『毎日』を過ごすことで、より成人させて頂けるのではないでしょうか。

なかなか一足飛びにはいきませんが、牛歩ながらも少しずつ少しずつ、日々心を澄ませながら通らせて頂きたいなと思わせて頂きます。

「澄ます」ってなんだろう

松田 道和

今回の基本方針を聞いてどう思ったか、真剣に考えてみる。
「澄ます」、「澄ます」、「澄ます」。
「澄ます」と聞くと、僕は水を思い浮かべる。
他に空気など様々あるが、さんずいへんだし、「男は水のような心、女は火のような心」とおやさまから聞かせてもらっているのを知っているから、男として連想しやすい。
水を澄ますためにはどうしたら良いのか。
たくさん頭に出てきたけど、まとまったのは２つでした。

最初に思い付くのは、ろ過のような浄水をするイメージ。
おふでさきの三号で水に例えてくださっているが、前向きな心持ちや感謝を、周囲への思いやりに満ちた言動を持って体現し、浄水する。
あれ、それはもう日の寄心、ひのきしんじゃないのか。

もうひとつ。思い出したのは、NHK朝ドラ「おかえり、モネ」。
このドラマで語られていたのは、循環の中で人は生かされているということ。山から流れる水が川となり海へ行き、海が温められ水蒸気になり、雲となり、冷やされて雨になる。そんな感じだったと思う。水の循環は、ぬくみ、水気上げ下げ、風等々十全のご守護たっぷりだなぁと思いつつ、朝づとめ後、ごはんを頬張りながら視聴していた。
神様のご守護に感謝し、理を立てて、理を振ることで、誰かがどこかで神様に助けてもらえる理が頂戴できる。理愛の循環が生まれる。理愛の循環の中で、心が能動的にも、受動的にも心が澄んでいく。
ああ、もうそれはおつとめじゃないのか。
大亮様も本会で循環をご自身のテーマとして話していたので脱線はしてないと思う。

また、科学的に空気に完全に触れない密閉された純水は腐ることはない。
空気に触れた水は、ミネラルを微生物が分解して有害な味やにおいが発生し、最終的に腐っていくんだよ、と昔習った記憶がある。
あぁ、だから女性の火のような心がありがたいのか。煮沸だ。心が冷たくなって沈殿しても、温めてもらって、男として立ててもらうと、綺麗な素直な心で１日、１週間、頑張れる。なんせ女性に褒められると、男はめっぽう弱い。多分。

心を澄ます毎日とは、安直に考えると、一人で澄ますことが出来るように思う。
人と会わずネットで買い物や情報収集が出来る時代。人と会わず、人と合わさず、美味しいもん食べて、好きを選択して、苦手を捨てて、嫌いは見ないように、自室の鏡だけ見れば澄んだように見える。
座禅などの自身の心と静かに向き合うことや、瞑想の雑多な日常からの心の解放があるし、人気だ。だけども、親神様の望まれる心の澄まし方は、人との関わりや循環の中での、この世が極楽と思える味わい深い澄ます方法なんだなあ。
と、基本方針を聞いて、ふと、思いました。
長々とありがとうございました。
おしまい。

「あーあ、なんかおもしろいことないかなー」

松田 祐輝

突然だが、読者の皆さんはタイトルのような言葉を、普段の生活の中で誰かがふいに発する場面に出くわしたことはあるだろうか。個人的な話ではあるが、私はこの言葉がなんとなく好きではない。どれぐらい好きではないかと言うと、大学生の頃にバイト仲間の女子大生がこの言葉をぽろっと口にした瞬間、反射的に軽い説教をかましたことがあるぐらいである。「誰かにおもしろいことを用意してもらおうと思ってたらあかん。自分自身で毎日を楽しくする努力をするんや。そうでないと楽しい人生など一生送れないぞ」と言い放った。高慢の極みである。今から振り返ってみても、恥ずかしい気持ちになる。

しかし、この恥ずかしい過去をカミングアウトしている今でも、内容に限って言えばそれほど間違った事を述べていないような気がしているのである。その女子大生はディズニーランドやフェスなどといったような「非日常」的な空間や時間を提供してくれるイベントが大好きな人であった。私はそういった類いのものを魅力的に感じる神経回路が発育されていない人間だからなのか、大の大人が集まって体中泡だらけになりながら練り歩くバブルランというイベントの映像を見た時は理解が追いつかず唖然としたものだ。

なぜ現代人のとりわけ若者はこういった刹那的で「非日常」的なエンターテインメントに魅了されるのか。それは「日常」に退屈しているからではないだろうか。「日常」を満足できていれば、刹那的で「非日常」的な退屈しのぎに頼る必要はない。「毎日同じ事の繰り返しだ。毎日がつまらない。いったい人間はなんのために生きているんだろう」というような厭世的な考え方を持つ現代人が、「日常」の虚しさを忘れさせてくれる「非日常」的な時間空間を求めているように

に私には見える。

新型コロナウイルス感染症という世界的な節が訪れる前の日本は、こうした刹那的で「非日常」的なコンテンツが溢れかえっていたように思う。しかし、感染症の拡大によってそれらは軒並み中止・縮小を余儀なくされた。私はこの節の中に、「日常」における心遣いと行いの大切さをもう一度思い返して欲しいという親神様の思いが込められているように感じるのである。『おふでさき』『おさしづ』の中に「日々」という言葉が非常に多く用いられていることからも、日々の心遣いの大切さを感じ取ることができる。

ご承知のように感染症が猛威を振るったここ数年間は、天理教においても従来の行事を実施することが難しくなった。それにより、我々は「そもそも行事は何のためにしているのか」という点について反省を強いられた。こうした状況において、しばしば耳にするようになった指摘は、「天理教団という組織として年限を積み重ねてきたがゆえに、我々は知らず知らずの間に行事を実施することが信仰の主眼であると錯覚してしまっていたのではないか」というものであった。

もちろん天理教において行事を実施することは「非日常」的な意義を持つものとして重要であることは言うまでもない。普段はなかなか会えない教友が集まって親睦を深めたり、「日常」の人間関係の中では打ち明けづらい苦しみや悩みを相談したりできるもの一つの意義であろう。あるいは講話や練り合いなどによって自分の考えをアップデートできたり、信仰的熱意を再燃することができたりするのも行事が持つ魅力である。しかし、それらはあくまで「非日常」な営みであり、「日常」の地道な信仰実践があるからこそさらに意義深いものとなるのではないだろうか。間違いなく信仰の主眼は日々に積み重ねる心遣いと行いにある。

青年会の新しい基本方針を聞いた時、私は「日常」に寄り添った内容だと感じた。さらに言えば、新型コロナという節に込められた親神様の思いとは、どのようなものであったのかという点について十分に思案が重ねられてきた背景が私には感じられたのである。

他方で、かつての教祖９０年祭で掲げられた「三千万軒にをいがけ」といったような具体的な数値目標が掲げられているわけではないということも考慮しなければならない。自身の心の成人のために何ができるか、周囲の人に喜んでもらえるために何ができるか、それぞれがよく思案して、日々に誠の心遣いと行いと積み重ねていきたいものである。

にち／＼に心つくしたものだねを　神がたしかにうけとりている
しんぢつに神のうけとるものだねわ　いつになりてもくさるめわなし
たん／＼とこのものだねがはへたなら　これまつだいのこふきなるぞや

（おふでさき号外）

en,
hair salon

人と人との縁を

人と物の縁を
（アクセサリー、雑貨や洋服とかも置いて行きたい）

いろんな縁を
大事にして
ふらっと立ち寄ってもらえるような

都会のはずれにある
ちょっと息抜きできるような場所に

生涯通いたいと
思ってもらえるお店に。

en,　（エン）
住所：大阪市北区本庄東1-10-3
営業時間：10時～19時

旭日分会の松浦道一委員が美容室をOpen！ぜひご利用下さい！

Sample

さあ！今こそ！ひのきしんだ！

屋敷は神の田地やで
蒔いたる種はみな生える（七下り目八ッ）

日時：令和５年６月１７日（土）８時　旭日大教会集合
　　翌１８日夕方解散　一日のみの参加も大歓迎！
対象：青年会員層
持ち物：作業手袋、ベルト、帽子、入浴セット
※安全靴は貸出可能です。
参加申し込みは庄司（090-5151-1325）まで！

ひのきしん隊とは？
紹介動画はこちら→

Sample

ぜひ、友達登録してください

天理教青年会
LINE 公式アカウント

QR コードからも登録できます。

イベントなどの情報を
配信しています。
ぜひ友達登録をして、お得な情報を
ゲットしてください!!

ＬＩＮＥ公式アカウント！旭日の若人の活動を続々配信中！

『旭日若人通信』

旭日
若人通信

ご登録はこちらのＱＲコードから⇒

sample